自民党 斉藤たかおさん

数々の個人質問がマスコミに報道されました！

名古屋市会議員ナンバー１の報道実績

日本一の救急体制に向けた救急現場への医師出動システム構築

「ドクターカー」導入へ

年度内に試行　医師が救急車で出動

市は、けが人の早期治療のため、救出に時間がかかる事故現場に医師が救急車で出動する「ドクターカー」制度を導入する方針を示した。年度内にも試験的に施行し、来年度中に本格実施を目指す。15日の市議会9月定例会で、斎藤高央議員（自民）の質問に答えた。

市によると、自治体がこの制度を導入するのは珍しい。経費抑制のため、新たな救急車を購入するのではなく、既存の救急車を使うという。

昨年、市消防局の救急車は指令から病院到着までに平均32.5分かかった。制度導入で救出に時間がかかる交通事故や作業事故の際、治療開始までの時間を大幅に短縮でき、救命率向上が期待される。

新制度では、119番を受け、救急隊が現場に医師が乗り込み、医療機関に搬送する。市は、けが人の早期治療のため、救出に時間がかかる事故現場に医師が救急車で出動する「ドクターカー」制度を導入する方針を示した。年度内の試験実施後、来年度中に本格実施を目指し、将来的には市内全域に広げたい考え。斎藤高央議員の質問に答えた。

市によると、自治体全域での制度導入は全国初。昨年、市消防局の救急車は指令から病院到着まで平均三二・五分かかったが、大幅に時間を短縮でき、救命率向上が期待される。経費抑制のため既存の救急車を使べた。

新制度では、119番を受けた市消防局が救急隊に医師が救急車で出動する「ドクターカー」制度を導入する方針を示した。年度内にも試験的に施行し、来年度中に本格実施を目指す。15日の市議会9月定例会で、斎藤高央議員（自民）の質問に答えた。

市によると、自治体がこの制度を導入するのは珍しい。経費抑制のため、新たな救急車を購入するのではなく、既存の救急車を使うという。

昨年、市消防局の救急車は指令から病院到着までに平均32.5分かかった。制度導入で救出に時間がかかる交通事故や作業事故の際、治療開始までの時間を大幅に短縮でき、救命率向上が期待される。

新制度では、119番を受けた市消防局が事案を判断した上で登録医療機関に連絡。市防災指令センターの指示を受け、医療機関近くの救急車が医師を迎えに行き、現場へ向かう。昨年実績から年間200～300件が対象になるとみられ、市は医療機関に協力を呼び掛ける。

斎藤議員は「一人でも多くの命を救うことが喫緊の課題」とただすと、河村たかし市長は「究極の市民サービスで、至急実現させるべきだ」と述べた。

▲中日新聞

救急車 医師乗せ現場へ

けが人の治療を早く始めるため、名古屋市は、救出に時間がかかる事故現場に医師が救急車で出動する「ドクターカー」制度を導入する方針を示した。年度内にも試験的に施行し、来年度中に本格実施を目指す。15日の市議会9月定例会で、斎藤高央議員（自民）の質問に答えた。

市によると、自治体がこの制度を導入するのは珍しい。経費抑制のため、新たに車を購入するのではなく、既存の救急車を使うという。

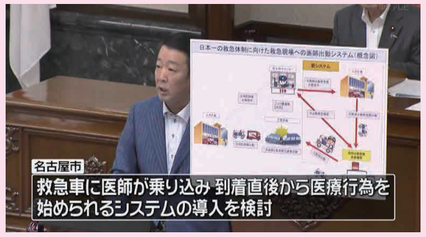
昨年、市消防局の救急車は指令から病院到着までに平均32.5分かかった。制度導入で救出に時間がかかる交通事故や作業事故の際、治療開始までの時間を大幅に短縮でき、救命率向上が期待される。

新制度では、119番を受けた市消防局が事案を判断した上で登録医療機関に連絡。市防災指令センターの指示を受け、医療機関近くの救急車が医師を迎えに行き、現場へ向かう。昨年実績から年間200～300件が対象になるとみられ、市は医療機関に協力を呼び掛ける。

斎藤議員は「一人でも多くの命を救うことが喫緊の課題」とただすと、河村たかし市長は「究極の市民サービスで、至急実現させるべきだ」と述べた。

名古屋市「ドクターカー」試行

◀中日新聞



▲中京テレビ　ニュースZERO

医師が救急現場へ迅速に出動するシステムを構築するべきと質問し、平成 30 年 12 月から運用を開始しました。

医師も出動 名古屋の救急車

来年4月から 市内全域で

名古屋市は来年4月から、出動する救急車に医師を乗せる取り組みを始める。交通事故などによる重傷者に、搬送中からの応急処置をすることで救命率向上を図る。複数の医療機関に待機してもらい、市内全域をカバーする。

交通事故や火災で助や救急隊に重傷を負って呼吸が難しくなった場合、救急救命士だけでは処置が難しい。そのため、医師が現場や救急車内で処置を始めたとえで、病院に搬送できるようにする。市が15日の市議会で、斎藤高央氏（自民）の質問に答えた。

全国で見れば医療機関が運用する「ドクターカー」もあるが、難病患者や人件費の負担が大きく、市内では導入されていないという。

市の防災指令センターは119番通報を受けると、16消防署に出動を指令している。来年4月からは、重傷が疑われる通報の場合、通常の救急車に加えて別の救急車を出動させ、医療機関で医師を乗せて現場に向かわせる。来年4月からの本格運用に向け、市内約30カ所の医療機関に協力を呼びかけ今年度中に試行する考えだ。（鍵岡次）

▲毎日新聞

戦国武将観光ロード（太閤秀吉功路　人生大出世夢街道）

「武将のふるさと」に

中村公園一帯盛り上げ策

戦国武将のゆかりの地として中村公園一帯を盛り上げようと、中村区が「武将のふるさと中村」と銘打ち、地域おこしを検討している。斎藤高央氏（自民）の質問に答えた。

市は来年度から区の役割を拡充。市民経済局が「区の特性に応じたまちづくり事業」として三千九百万円を来年度予算で要求している。

同区には秀吉を祭る豊国神社や、清正誕生地と伝わる妙行寺があるほか、織田信長や福島正則、前田利家も通ったとされる「鎌倉街道」もある。

区まちづくり推進室によると、地下鉄中村公園駅から豊国神社へ向かう参道をにぎわいづくりの拠点とし、案内板設置やイベント開催を検討。武将らの像を道沿いに設置する「武将観光ロード」なども構想する。

市議会では、宮村喜明・市民経済局長が「『武将のふるさと中村』としての魅力向上など、区役所が積極的に地域を盛り上げていけるようにしたい」と述べた。

◀中日新聞

▲モニュメント

名古屋駅から名古屋駅西銀座通商店街、太閤通を経由し、中村公園まで至る「太閤秀吉功路 人生大出世夢街道」。そのルート上に、豊臣秀吉が生まれてから天下統一を果たすまでの大出世ストーリーを追体験できる武将モニュメントを３０基設置。名古屋城石垣風土台の上に、江戸時代に流行した『絵本太閤記』の挿絵をモチーフにしたレリーフ、武将風オブジェを配置したモニュメントを設置いたしました。

都市伝説　～幻の柳橋駅の設置について～

「柳橋駅」設置へ調査費

地下鉄東山線　市長意向「起爆剤に」

名古屋市議会の十二月定例会は二十五日、本会議を再開し、八議員が個人質問した。河村たかし市長は、中島徳一郎氏（自民）の「伏見駅の新駅設置について」の質問に答えた。

市によると、名古屋駅は、伏見駅間の二・四キロ、駅間距離が市内で最も長く、駅間に新駅を設置することで、利便性が向上する。

市は、新駅設置に向けて、地元住民らが二十三日、河村たかし市長に新駅の早期設置を求める要望書を提出した。

要望書では、二〇二七年のリニア中央新幹線開通を控えて柳橋周辺は活況にあふれ、「地域の悲願」であり、柳橋駅が設置されれば、観光や経済の面で大きな効果があると強調している。

新明学区連絡協議会の伊藤義信会長は「駅ができれば地域の交通渋滞が緩和される」と反応。反対学区連絡協議会の刑部雅一会長は「住民はいつできるのかと期待している」、中村区商店街振興組合理事の鬼頭浩理事長は「街づくり設備をお願いしたい」とあいさつした。

市側は、名鉄が二四年度までに方向性を示す名古屋駅再開発に合わせ、新駅がどのような役割を果たすかを検討していくとした。要望には渡辺義郎市議、斎藤高央市議らが同席した。

▲中日新聞

▲中日新聞

河村市長（右から2人目）に要望書を提出する地元民ら＝役所で

柳橋新駅の早期設置を

住民が市長に要望

市営地下鉄東山線の名古屋・伏見駅間で想定されている側橋駅（中村区）の新設構想を巡り、地元住民らが二十三日、河村たかし市長に新駅の早期設置を求める要望書を提出した。

要望書では、二〇二七年のリニア中央新幹線開通を控えて柳橋周辺は活況にあふれ、「地域の悲願」であり、柳橋駅が設置されれば、観光や経済の面で大きな効果があると強調している。

新明学区連絡協議会の伊藤義信会長は「駅ができれば地域の交通渋滞が緩和される」と反応。反対学区連絡協議会の刑部雅一会長は「住民はいつできるのかと期待している」、中村区商店街振興組合理事の鬼頭浩理事長は「街づくり設備をお願いしたい」とあいさつした。

市側は、名鉄が二四年度までに方向性を示す名古屋駅再開発に合わせ、新駅がどのような役割を果たすかを検討していくとした。要望には渡辺義郎市議、斎藤高央市議らが同席した。

▲中日新聞

▲メーテレ　UP!

▲中京テレビ　キャッチ

柳橋新駅について、名古屋駅の利用者を分散させ混雑緩和を図る観点から整備の必要性を質問し、市長からは国の国際競争拠点都市整備事業への採択に向け検討を進めるよう指示した旨の答弁がありました。

地下鉄柳橋駅の新設構想

市「役割検討進める」

市営地下鉄東山線の名古屋・伏見間に想定されている柳橋駅（中村区）の新設構想について、河村たかし市長は設置の検討を続けていくとした。

斎藤議員は、リニア中央新幹線の開業を控え、柳橋駅は名古屋駅エリアの一部と指摘。利用者の多い名古屋駅の混雑解消に向けても「柳橋駅は必要不可欠だ」と提案した。

これに対し、藤巻聡・住宅都市局長は「名古屋駅エリア全体における新駅の役割について検討を進めていきたい」と答弁。また、河村市長は「広い視点で駅設置について考え、国家プロジェクトになれば、可及的速やかに設置の判断をしたい」と述べた。

柳橋駅建設は、一九五四年の東山線名古屋―栄町間の着工前に検討されたが、需要が見込めないとして設置を見送られた。

しかし、市長は二〇一四年の市議会で、リニア開業を視野に駅設置に前向きな姿勢を表明。その後、市は駅のレイアウトや工法を検討し、物理的には設置は可能と確認している。

▲中日新聞

他にも市政発展のためにさまざまな質問をしています

プラ削減 啓発品に プラ使い

携帯ティッシュ外装 3年で1.8トン使い捨て

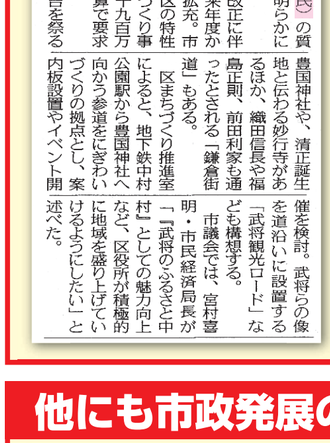
「百六十五万個を縦に積み上げると富士山五個分。まずは市役所がマイクロプラスチック削減に向けた姿勢を示すことが重要」。市議会の個人質問で、マイクロプラスチックによる環境問題を取り上げた斎藤高央議員（自民）が訴えた。

マイクロプラスチックは大きさ五ミリ以下の微小なプラスチックのこと。ごみとして海に流れ込んだプラスチック製品が壊れて細かくなるなどして発生し、地球規模で汚染が問題になっている。

ポケットティッシュは単価も安くて手軽で、啓発物品として最も多く使われている。外装には一個あたり一・一グラムほどのプラスチックが使われているが、クリアファイルやペンと違って使い捨てだ。年五十五万個使われているポケットティッシュの外装を紙製や微生物によって分解される素材にすれば、〇・六トンのプラスチックを削減できることになる。

ただ、市によるとプラスチック以外を使ったポケットティッシュを手に入れることは現段階では難しく、メモ帳などの物品に換えることが現実的。市の担当者は「役所がこういう取り組みをすることで、プラスチックを使わない商品開発意欲も高まってほしい」と期待。「職員から意識を変えて、物品を作る際に一度立ち止まって考えられるような取り組みとして、他自治体にもかがってほしい」と話した。

財源確保やマイクロプラスチック対策のため、市は売り上げの一部が環境保全基金に寄付される自動販売機の導入を目指し、飲料メーカーなどに協力を呼びかけ始めている。



啓発物品として配られるポケットティッシュ＝市役所で

市、年度内にも新方針

市の啓発活動のために作られたポケットティッシュの数は三年間で百六十五万個。市議会九月定例会でそんな数字が明らかになった。ポケットティッシュの外装にはプラスチックが使われているが、計算すると三年間で一・八トンほどを使い捨てたことになる。市はプラスチックごみ削減のため、年度内にも啓発物品についての方針を取りまとめる。

▲中日新聞

リニアを機に脱・迷駅

東口駅前広場 面積2倍に

市議会六月定例会は二十五日、本会議を再開し、八議員が個人質問した。リニア中央新幹線開業に向けた名古屋駅周辺の再整備で市は、東口駅前広場を拡大し、「迷駅」とやゆされる乗り換えの分かりにくさを改善する。新たに観光案内施設や交番も置く。斎藤高央議員（自民）の質問に答えた。（竹田佳彦、池内琢）

市議会 個人質問

名駅東口駅前広場の拡張は、昨年二月の市都市計画審議会で認められている。駅前ロータリーをY字形の三差路につくりかえ、移転するモニュメント「飛翔」がある付近まで広場が大きく張り出す。

市側がこの日示した具体案によると、面積は現在の六千五百平方メートルから一万四千平方メートルに倍増。大地震などの災害発生時には帰宅困難者らを受け入れる役目も担う。広場中央部には噴水や中央部につくる観光案内施設が設置される。

▲中日新聞

地下鉄東山線の中改札や地下街につながる入り口を設け、JR名古屋駅から円滑な移動が可能になる。地上部では、駅東側の大名古屋ビルヂングやミッドランドスクエア方面への移動もしやすくなる。観光案内施設も新設する方針。

名駅南東部にあったる広場南側は、現在の「ワワーズガーデン」をなくして平らにすることで、名鉄から北側への見通しや移動を改善。名古屋駅交番は、広場中央部につくる観光案内施設付近に移転する。

斎藤議員は「完成後は明るく広々とした駅前広場になり、乗り換え時によどみなく人が流れることを期待したい」と述べ、会員制交流サイト（SNS）などを活用して事業の全体像を積極的に市民へ公開するよう求めた。

市住宅都市局の藤條聡局長は「駅前広場は多くの人を迎え、街の起点となる重要な結節点と強調。整備後が想像しやすい図面を年度内に作る考えを示した。

▲中日新聞